

Weekly-Report



C X 週間展望 (4月19日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

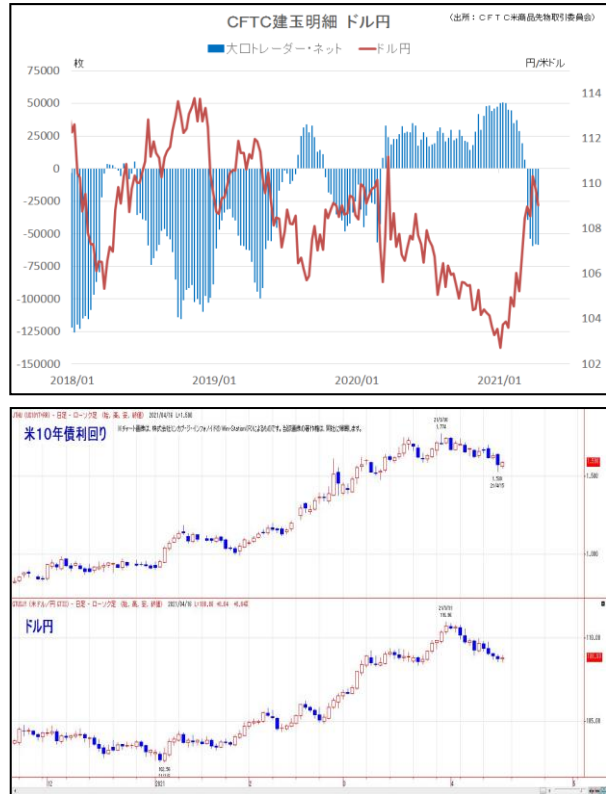
【先週レビュー】

先週レポートで《第1四半期のドル高の調整局面入りとなっている。過去も3月と4月のトレンドは逆転しやすい傾向が確認できる。大口投機王の円売りポジションも膨らんでいる。米国のワクチン接種の進展と、巨額財政刺激策に伴うインフレ期待が長期金利を押し上げ、ドル高要因となっていたが、FRBは慎重スタンスを固辞している中、金利上昇思惑に対するドル買いは一巡した格好。新年度入りした事もあり、市場は新たなテーマ探し。IMF世界経済見通しでは、前回から上方修正された地域が多かったが、世界的にワクチン接種が進むようであれば、米国と比べて出遅れていたユーロや新興国通貨買いの動きに》としたが、先週は、米経済指標は良好だったものの、米金融当局者からは金融緩和策の継続が強調されており、米債利回りの上昇が一巡していることでドル売り優勢だった。

3月の米消費者物価指数(CPI)は前年比+2.6%と事前予想の+2.5%を上回ったが、昨年3月が新型コロナウイルスの感染拡大で悪化していたこともあり、その低い水準との比較での上昇で、大幅上振れはある程度は織り込み済み。

3月の米小売売上高が前月比+9.8%、自動車を除くコアが同+8.4%と事前予想を大きく上回った。また、4月のニューヨーク連銀製造業景気指数、4月のフィラデルフィア連銀景況指数も市場予想を上回り、新規失業保険申請件数は予想よりも低下するなど、米経済指標の多くは改善を見せた。

パウエルFRB議長のNYエコノミッククラブ主催バーチャルイベント講演では「2022年より前の利上げはありそうもない」「大半のFOMCメンバーは2024年まで利上げを見込んでいない」「利上げの前に資産購入ペース縮小が予想される」と発言。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望 (4月19日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、週末とあって持ち高を調整する円売り・ドル買いが優勢だった。米債券市場で長期金利が上昇し、日米金利差の拡大を意識した円売りも出やすかった。米株式市場で主要株価指数が堅調に推移した事も一因。

ただ、米景気の回復にもかかわらず米連邦準備理事会(FRB)高官からは金融緩和の長期化を意識させる発言が相次いでいる。主要通貨に対してドル安基調が続くとの見方から、ドルは対ユーロで売られ、対円にもドル売りが波及した。

CFTC建玉明細(4/13 現在)は、58,312枚の売り越し。前週(57,989枚の売り越し)から拡大。



週末のNYダウは続伸。連日で過去最高値を更新。米住宅着工件数が前月比19.4%増の173万9000戸(年率換算)と市場予想を大幅に上回り、2006年以来の水準となった。4月の米消費者態度指数(速報値)は20年3月以来の高さだった。市場予想を上回る経済指標が相次ぎ、米景気回復期待が強まった。中国の21年1~3月の実質国内総生産(GDP)が前年同期比18.3%増と高い伸びとなったのも買いを誘った。



米国ではコロナワクチンの1日当たりの接種が300万人を超える日が続き、ワクチンを1回でも接種した人口は米全体の4割近くなり、米経済の正常化に弾みが付くとの期待から、経済再開の恩恵を受ける銘柄が買われた。市場予想を上回る主要企業の決算が続いていることも好感された。

ウォラーFRB理事が16日のCNBCのインタビューで今年の米経済に楽観を示した一方、早期の金融緩和縮小には慎重な姿勢を示し、金融緩和の長期化観測が広がった。

Weekly-Report

C X 週間展望 (4月19日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(3)

【今週見通し・戦略】

米消費者物価指数(CPI)や米小売売上高など多くのマクロ経済指標は、強い内容となり、米インフレや回復期待を裏付ける内容だったものの、米国債利回りは織り込み済みの反応でダブルトップ形成となった。

F R Bが慎重姿勢を維持する中で、強い米経済指標による金利高・ドル高は、3月相場で一定程度、先取りして織り込んだ感。

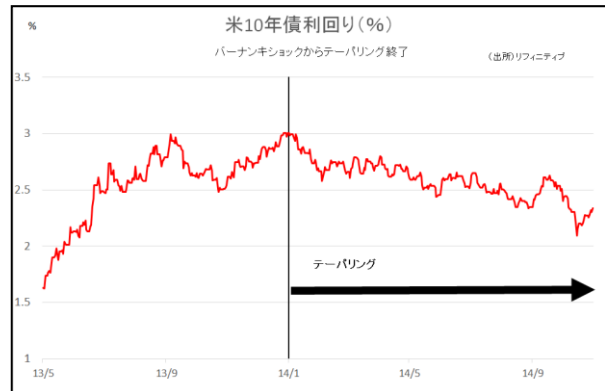
バーナンキショック時にも金利は出口戦略を織り込みながら上昇したが、実際のテーパリング開始後は、金利は低下した。

金利上昇に伴うドル高と言うテーマは、一巡したかもしれない。

22日にECB理事会。金融政策の変更はなしの見通しだが、PEPP(パンデミック緊急購入プログラム)について、買い入れを拡大するのにか否かに注目。

ラガルドECB総裁は、現状のユーロ圏経済について、金融政策と財政政策という2本の松葉杖に頼った状態が続いていると、慎重な姿勢を示しており、積極的な緩和姿勢が長期化する可能性が意識されると、ユーロ売りにつながる可能性も。ユーロドルの1.2000の攻防に注目。

23日に予定されているユーロ圏やドイツ、フランスなど加盟主要国の製造業・非製造業PMI(4月速報値)と合わせ、ユーロの動きに要注目。



Weekly-Report



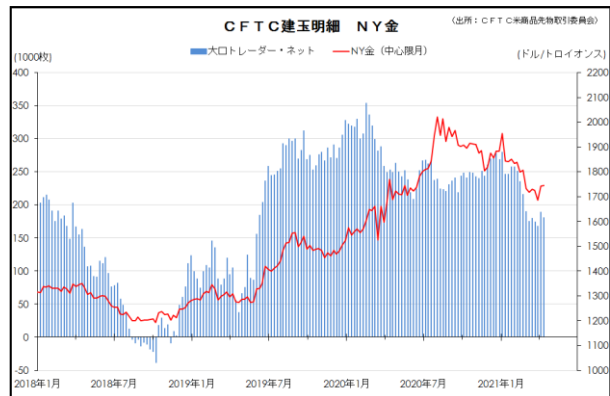
C X 週間展望（4月19日～）

調査課 菊川 弘之

金先物(4/16 清算値:6,173円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで《NY金（6月限）は、1700ドル割れでは買い拾われ、ダブルボトムを形成中だ。ネックライン（3/18 高値）を明確に上抜くと、ダブルボトム完成となる。一目均衡表からの上値目標は、N=1757.2ドル、V=1834.9ドル、E=1836ドルなどがカウント可能。金と逆相関の米10年債利回りが、ネックライン（3/24 安値）を割り込みダブルトップ完成なら、金のダブルボトムの信頼性は高まる。



金価格が年初から下落基調にあったこともあり、アジアの需要が急回復している。新型コロナウイルスの影響で去年の宝飾用需要は過去最低となったが、足元で金需要大国の中国・インドの需要が増加している。

一方、世界的な債務増大に伴う「通貨全体に対する信認低下」から、「暗号資産」がヘッジファンドや、機関投資家に投資対象として認識され、「金」からポートフォリオのリバランスが行われていることが、金の上値抑制要因となっている。ただ、ビットコインのマイニングは、ケンブリッジ大学の試算で小さな国に匹敵するような電力127.7テラワット（一時間当たり）を消費し、環境破壊につながるなどの指摘もある」としたが、先週のNY金（6月限）は、ネックライン（3/18 高値：1756.1ドル）を再度、上抜き、リターンムーブからの反発パターンとなった。基準線～転換線が下値支持帯として機能し、価格帯別出来高の厚い1700～1750ドルでの底固め確認。

3月の米消費者物価指数（CPI）は前月比0.6%上昇し、2012年8月以来の大幅な伸びとなった。事前予想の0.5%上昇も上回った。食品・エネルギーを除いたコア指数は0.3%上昇（事前予想0.2%上昇）。ただパウエルFRB議長は持続的なインフレとはならないとの見方を示しており、米CPI発表後はドル安に振れた。3月の米小売売上高や米新規失業保険申請件数など米経済指標は強い内容となったが、米10年債利回りは1カ月ぶりの低水準となる1.528%まで低下した。

4
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



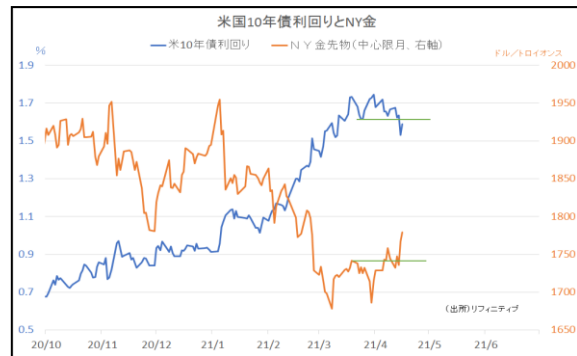
C X 週間展望 (4月19日~)

調査課 菊川 弘之

金先物(4/16 清算値:6,173円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(6月限)は、続伸。ドル安一服などを受けて上げ一服となったが、1772.4ドルで押し目を買われた。中国の国内総生産(GDP)が過去最大の伸びとなった事に加え、市場予想を上回る経済指標が相次ぎ、リスク選好の動きとなった。



CFTC建玉明細(4/13 現在)で大口投機玉は、180,874枚の買い越し。前週(189,509枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

年初から米金利上昇に伴うドル高、金ETFからの資金流出などを背景に、金価格は下落トレンドを形成した。世界的な金融緩和や財政出動により生じた過剰流動性が、「金」ではなく、「暗号資産」や「ドル」「株式」へ流入した。ただし、4月に入り、この流れに変化が生じ始めている。金が安値を示現したことで、インドや中国の実需買いが急増したが、各国中央銀行の買い増しも目立つ。

中国が国内と国際銀行に対して大規模な金輸入を許可した模様。中国当局の輸入許可を受け、約150トン(85億ドル相当)が4~5月に国内に到着する見通し。

市場のテーマがこれまでの「金利上昇」から、地政学リスクや、債務問題、貿易・経常赤字問題などにシフトすると、「金買い」の流れに一変する可能性もある。

米国とイランが欧州を仲介役として核合意復帰に向けた協議を継続している一方、イスラエルがイラン核施設へサイバー攻撃を実施、イランが報復を示唆するなど、中東情勢にキナ臭さが増している。ロシアとウクライナの国境でも緊張が高まっている。ウクライナ軍はロシアによって併合されたクリミア半島やロシアとの国境に向けて移動している。これに対して、ロシアもウクライナ国境に向けて軍を移動させている。

日米首脳会談後の声明を受けて、中国は強く反発を示した。北朝鮮による核実験の再開、弾道ミサイル(ハワイ・グアム射程)発射の可能性も浮上している。過去、日本のGW中に金融市場が荒れるケースも多いが、大口投機玉の買い玉整理が進む中、金の持つ「安全資産」としての顔が、再評価されてくるかもしれない。

Weekly-Report

C X 週間展望 (4月19日～)

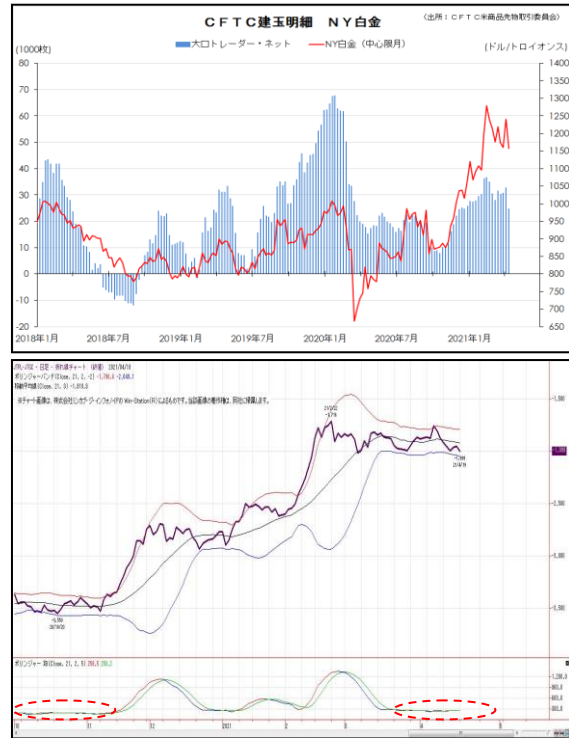
日産証券

調査課 菊川 弘之

白金先物(4/16 清算値:4,219円)

【前週レビュー】

先週レポートで《内外共にダブルボトムを完成したものの、上値は走らず、ネックラインを割り込んでいる。再度、ネックラインを上抜いてくると、リターンムーブからの反発パターンだが、英アストラゼネカのワクチンと血栓症の発症が関連している可能性が指摘され、ユーロの上値が抑えられていることが嫌気された。8日までに使用に年齢制限を設定する国が相次ぎ、購入をストップする動きも出ている。ワクチンの副作用と接種の行方に加え、欧州諸国のロックダウン（都市封鎖）解除の行方が焦点。金と白金の鞘取りは、%Bが低水準でもち合っており、逆張り対処》としたが、先週のNY白金（7月限）は、利食い売り主導で調整局面となったが、景気回復期待から安値拾いの買いや、金高・株高を受けて地合いを引き締めた。



週末のNY白金（7月限）は、続伸。時間外取引では、中国の国内総生産（GDP）が過去最大の伸びとなり、リスク選好の動きから押し目を買われた。日中取引では、戻りを売られる場面も見られたが、株高を受けて堅調となった。

CFTC建玉明細（4/13 現在）は、24,632枚の買い越し。前週（32,748枚の買い越し）から縮小。

【今週見通し・戦略】

NY白金は、3月安値～4月高値のレンジ放れ待ち。金と白金の鞘取りは、%Bが低水準でもち合っており、逆張り対処。現在の「金買い・白金売り」が加速するか否かは%Bの動きに注意。

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

C X 週間展望（4月19日～）

ゴムRSS3(4/16 清算値:237.7円)

【先週レビュー】

先週レポートで《当先の順鞞は縮小したものの、先限売りによるもので3月限納会後の期近の動きに、需給ひっ迫感は乏しい。タイオフアーから、輸入採算価格を求めると、235円前後で底値に接近中との見方もできるが、日本の先物市場は、タイオフアーに対し、10円前後の下ザヤとなるケースもある点に注意。



足元の日本市場の下落は、上海主導であり、上海が節目を割っても下げ加速とならなければ、買い戻しから急反発パターンもあり得る。一方、押し目買い玉を投げさせるようなずるずると下値試しのような展開も想定され、買いは上海市場の下げ止まりを確認してからの方が無難》としたが、先週のRSS3号は、4月14日安値を起点に急反発。16日に中国の国家統計局から発表された第1四半期国内総生産（GDP）は前年比18.3%増加となり、四半期ベースでは、過去最大の伸びとなった。コロナ禍からの回復が鮮明になっていた事などが材料視された。

【ゴム在庫】

全国営業倉庫在庫（生ゴム在庫） 3月31日現在（カッコ内は前旬比）

在庫：9,882トン（+605トン）

入庫：1,269トン（+421トン）・出庫：664トン（-79トン）

大阪取引所・ゴム指定倉庫在庫 3月31日現在（カッコ内は前旬比）

在庫：7,839トン（+607トン）

入庫：1,094トン（+259トン）・出庫：487トン（-106トン）

【今週見通し・戦略】

2月高値～4月安値までの下落に対する38.2%戻しは基準線と重なる249.7円。半値戻しは雲と重なる258.1円。当先の順鞞は継続しており、納会後の鞞滑りが懸念される。上値リスクは原油高。中東の地政学リスクが高まっており、供給障害を伴う攻撃・事故などがあつた場合は要注意。

7
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

C X 週間展望 (4月19日~)

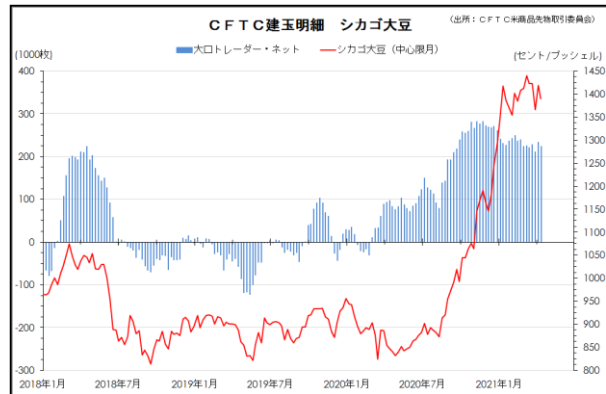
一般大豆先物(4/16 清算値:46,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「3月末発表の作付意向面積が事前予想を下回ったことによる需給引き締まりが根強く警戒されている。米期末在庫率は3%を下回る見通しで、作付意向面積からは21/22年度の大豆需給はさらにひっ迫する可能性がある。」

週間純輸出成約高からは、米国の輸出が低迷している状況が窺われるが、収穫を終えたブラジル大豆輸出が活発化する時期を迎えているため。

今春以降の生育に関しては、天候不良による作柄悪化は需給に大きな影響をもたらすだけに天候に対する意識が高まる。1400セントを挟んだ保合いが継続見通し」としたが、先週のシカゴ大豆(5月限)は、一時、1400セント割れとなる場面があったが、強気のファンダメンタルズと、コーンの上伸に支援され、堅調地合いを維持。1400セントを中心とした高下が続いている。米期末在庫の低水準に加え、作付意向面積が需要を満たすに十分ではない可能性が価格をサポートしている。



週末のシカゴ大豆(5月限)は、大幅続伸。前日発表された全米油糧種子加工業者協会(NOPA)の3月の大豆圧砕高が前月を大きく上回ったことがこの日も期近の買い材料となった。

CFTC建玉明細(4/13現在)は、224,018枚の買い越し。前週(233,803枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(4月8日までの一週間)】

大豆: 24万6100トン(事前予想レンジ: 10万~70万トン)

【今週の見通し・戦略】

期末在庫の歴史的な低水準から下値は固いものの、作付が開始するまでは、コーンの作付動向を見守る状況。コーンの作付遅れは、大豆の作付面積増加思惑に繋がる。

Weekly-Report



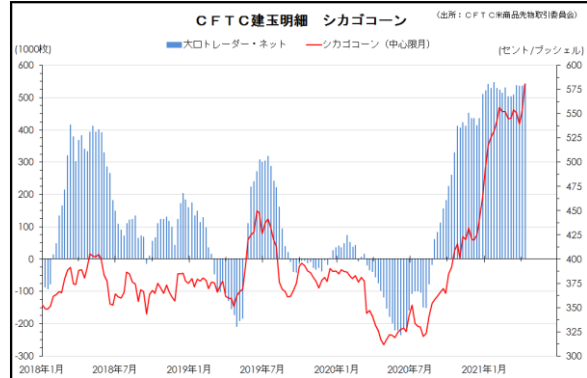
C X 週間展望（4月19日～）

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(4/16 清算値:32,010円)

【先週レビュー】

先週レポートで「作付け進捗報告が始まったが、2回目以降からは徐々に市場への影響度を高める。シカゴは強気の需給報告を受けて、一代高値を更新したものの、長い上ヒゲ陰線で引けた。短期的な買い過剰感も強く、作付けが順調に進むようなら、一旦は利食いで玉整理の動きも予想される。ただし、在庫率が10%を割り込み需給タイト感がベースにある為、押し目は買われやすいだろう」としたが、先週のシカゴコーン（5月限）は、コーンベルトの低温が作付けを遅らせるとの見方が支援材料となり、9日の上ヒゲ高値を上抜き、一代高値を更新となった。11日時点の米国産コーンの作付け進捗率は4%。昨年、同年の同時期の3%と比べると1%高いが、市場予想の6%を下回った。



週末のシカゴコーン（5月限）は、下落。前日の6ドル到達の達成感から手仕舞い売りが優勢となった。一方、期先の新穀限月は米コーンベルトで低温が続いていることで、作付け遅延懸念が根強く相対的に下値が堅かった。

CFTC建玉明細（4/13 現在）は、543,286枚の買い越し。前週（536,152枚の買い越し）から拡大。

【週間純輸出制約高（4/8 までの一週間）・週間作物進捗報告（4/11 までの週）】

輸出成約：38万0300トン（事前予想レンジ：60万～120万トン）

作付け：4%（前週2%、前年3%、同年3%）

【今週の見通し・戦略】

期末在庫率が10%割れとなるのは2013/14年度以来。作付けが始まり、新穀の期近12月限の取引が増えている。12月限は15日に517セントをつけ、一代高値を2日連続で更新。5ドル台前半で値固めを終えた後、旧穀限月に徐々にサヤ寄せする展開へ。作付け遅れが解消されない限り、押し目買い基調継続。

Weekly-Report



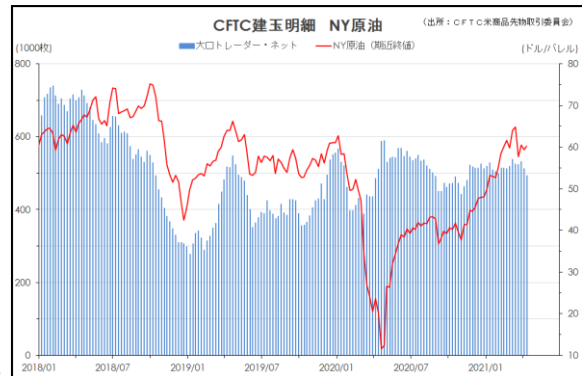
C X 週間展望（4月19日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「欧州や南米・インドなどでの新型コロナウイルスの再拡大と、米国や英国でのワクチン接種の進展や、追加経済対策に伴う景気回復期待との綱引き相場」という構図の中、イラン関係のニュースが加わってきた。



イラン核合意（2015年）の当事国である英・仏・独・中・ロとイランは6日、次官級協議をウィーンで開いた。会合には2018年に合意を離脱した米国の代表団も参加。

イラン側は米国の制裁解除が先だとして「米国との協議は不要だ」（ザリフ外相）との立場を堅持している上、イランは今年6月18日に大統領選挙を控える。今回の選挙では、任期満了となるロウハニ師は出馬できず、穏健派がとなえた国際協調路線は信頼を失っており、強硬派大統領の誕生の可能性も高まっている。2020年の議会選挙でも強硬派が躍進し、革命防衛隊の発言力が強まっている。

～中略）。EUを仲介役とした間接交渉に期待が集まるものの、早期の歩み寄りは容易ではない。米では共和党だけでなく民主党からもイラン核合意への復帰に対する反対論も出ている。安易にイランや中国に妥協すれば、中間選挙に勝てないとの思惑も強い。仮に交渉が停滞すると、中東地域は不安定さを増す。既にイランは、核爆弾を開発できるとされる濃縮度20%のウラン製造に着手している中、イスラエルによるイラン核施設へのサイバー攻撃（4/11）が実施されている」としたが、先週のNY原油（5月限）は、続伸。米エネルギー情報局（EIA）が発表した週報で石油製品需要が回復したことや、4月月報で石油輸出国機構（OPEC）や国際エネルギー機関（IEA）が需要見通しを上方修正したことに加えて、3月の米小売売上高が市場予想を大幅に上回って伸び、ニューヨーク連銀の製造業景況指数や米新規失業保険申請件数も市場予想より強い内容で、米株式相場が上昇し、新型コロナウイルスワクチンの普及で米経済の正常化が進み、原油需要が拡大するとの期待が強まった。

イランがイスラエルのサイバー攻撃に対して、ウランを60%に濃縮する作業を始めたと発表、中東の地政学リスクの増大も一因。

Weekly-Report

日産証券

C X 週間展望 (4月19日～)

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(5月限)は、反落した。米景気の回復観測などを背景に前日まで上昇が続いていた中、5月限の納会や週末を前にした利食い売りが優勢となった。米ベーカー・フューズによると、米国の稼働中の原油掘削措置(リグ)数は前週比7基増の344基となった。米国の供給増が需給の緩みにつながりかねないとの見方も相場の重荷だった。



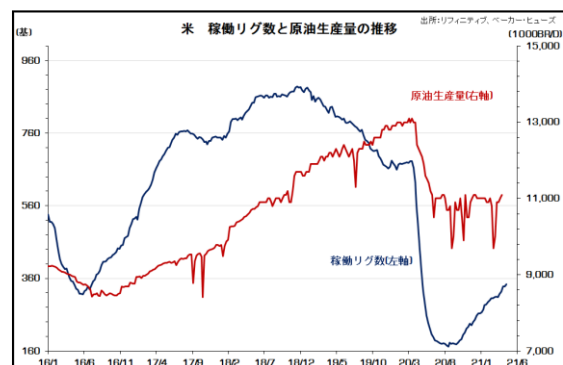
ただ、ダウ平均株価がさらに過去最高値を更新するなど米株が上伸したことやドル安を好感して下げ幅も限定的。

またイラン政府がウランを60%に濃縮する作業を始めたと発表したことも地政学的リスク増大の面から下支え要因となった。良好な米経済指標の発表に加え、国際エネルギー機関(IEA)の今年の世界の原油需要見通しの引き上げなども支持要因。

CFTC建玉明細(4/13現在)は、492,678枚の買い越し。前週(511,725枚の買い越し)から縮小。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが16日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油掘削リグ稼働数は、前週比7基増の344基と、2020年4月以来の高水準となった。過去数カ月の原油高を受け、一部業者が掘削活動を強化した。



国内の天然ガス掘削リグ稼働数は前週比1基増の94基で、こちらも2020年4月以来の高水準となった。石油と天然ガスを合わせたリグ稼働数は5週連続で増加した。

Weekly-Report



C X 週間展望 (4月19日~)

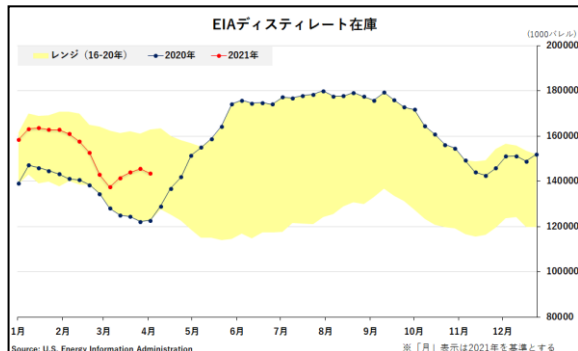
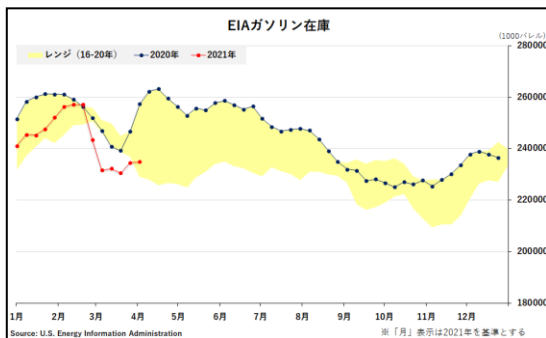
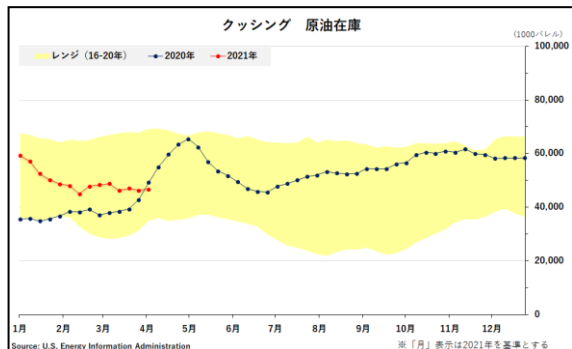
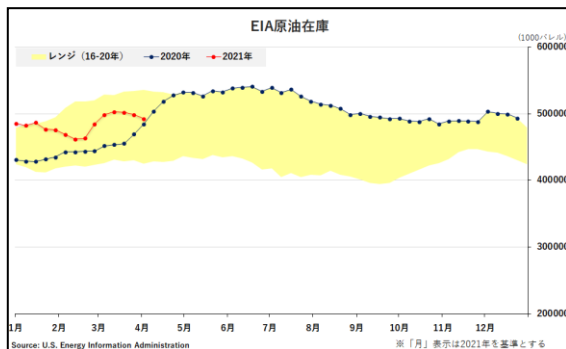
調査課 菊川 弘之

東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油	4億9242万バレル	589万バレル減少
クッシング	4667万バレル	34万6000バレル増加
ガソリン	2億3490万バレル	30万9000バレル増加
留出油	1億4346万バレル	208万3000バレル減少



【石油連盟週報】

石油連盟週報(4日~10日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比2.6%増の178万8778キロリットル。灯油在庫は2.5%増の146万5360キロリットル。

週間原油処理量は1.7%増の271万9010キロリットル。

推定出荷量は、ガソリンが4.7%増の82万3150キロリットル、灯油が24.1%減の16万9356キロリットル。

Weekly-Report

日産証券

C X 週間展望（4月19日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(4)

【今週の見通し・戦略】

イラン核合意（2015年）の当事国である英・仏・独・中・ロとイランは4月6日以降、次官級協議を開催していたが、ここにきて中東情勢にキナ臭さが増してきた。

4月に入り、米国は欧州連合（EU）の仲介を通じ、イラン側と間接交渉を開始し、米国の核合意離脱・制裁再開以降、落ち込んでいるイランの原油生産・輸出が増えると思惑が原油価格の上値を抑えていたが、イラン原子力庁が4月11日、中部ナタンズ（Natanz）の核施設がサイバーテロ攻撃を受けたと発表。イラン政府は12日、イスラエルがウラン濃縮施設を攻撃したと非難し、「報復」と核開発強化を宣言。

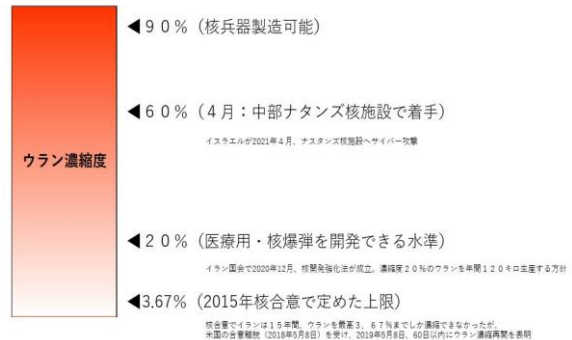
ネタニヤフ首相は12日、オースティン米国防長官とエルサレムで会談。ネタニヤフ氏は、「イランは核兵器獲得を諦めず、イスラエルの壊滅を求めている。核の能力を獲得するのを許さない」と強調した。

イスラエル紙「ハーレツ」は13日、アラブ首長国連邦（UAE）東部フジャイラ沖でイスラエル関連の自動車運搬用の貨物船が、オマーン湾を航行中にイランからの攻撃を受けたと伝えた。イランとイスラエルの間では最近、互いに船舶が破壊工作などを受けたと主張する事件が続発している。

イエメンの親イラン武装組織フーシ派による、サウジアラビア国営石油会社サウジアラムコの石油施設へのドローン攻撃も12日に伝わった。

イラン外務省のアラグチ次官は13日、ウランの濃縮度を60%に引き上げると発表。イスラエルの核施設の破壊工作を受けた報復措置。米ニューヨーク・タイムズが報じるところによると、濃縮度20%から90%にするには「1ヶ月以上」かかるが、60%からだ「1週間」で核爆弾製造レベルにまで引き上げることが可能としている。

米国の核合意復帰に関しては、保守穏健派のロウハニ大統領の任期切れに伴う大統領選挙が6月18日に迫っており、制裁解除の道筋をつけたいロウハニ政権と、保守強硬派候補大統領を避けたい米国の思惑は一致していると思われるが、合意までのハードルは高い。



Weekly-Report



C X 週間展望 (4月19日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (4/19~4/25)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
4月19日(月)	8:50	日本	3月	輸出(前年比)	
	8:50	日本	3月	輸入(前年比)	11.8%
	8:50	日本	3月	貿易収支	215.9(十億)
	15:00	ドイツ	3月	生産者物価指数(PPI)(前月比)	0.7%
4月20日(火)	15:00	英国	3月	失業手当受給者数増減	86.6(千)
	15:00	英国	2月	失業率(ILO基準)	5.0%
	15:00	英国	2月	就業者数増減	-147(千)
	納会	米国	---	NY原油2021年5月限納会	
4月21日(水)	15:00	英国	3月	消費者物価指数(CPI)(前年比)	0.4%
	15:00	英国	3月	小売物価指数(前年比)	1.4%
	15:00	英国	3月	小売物価指数 除住宅金利(前年比)	1.6%
	15:00	英国	3月	生産者物価投入指数(PPI)(前月比) 原数値	0.6%
4月22日(木)	15:00	英国	3月	生産者物価指数(PPI) コア産出指数(前月比) 原数値	0.1%
	19:00	英国	4月	QBI 動向 - 受注	-5
	20:45	ユーロ圏	4月	ECB リファイナンス 金利	0.00%
	20:45	ユーロ圏	4月	ECB 預金金利	-0.50%
	21:30	米国	4月12日, 週次	新規失業保険申請件数	576(千)
	21:30	米国	4月5日, 週次	継続失業保険受給総数	3,731(百万)
	23:00	米国	3月	中古住宅販売戸数	6.22(百万)
	未定	ユーロ圏	---	ECB理事会	
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
	0:00	ユーロ圏	4月	消費者信頼感指数 速報値	-10.8
4月23日(金)	8:01	英国	4月	GfK 消費者信頼感指数	-16
	8:30	日本	3月	全国コア消費者物価指数(CPI)(前年比)	-0.4%
	8:30	日本	3月	全国消費者物価指数(CPI) 総合(前年比)	-0.4%
	9:30	日本	4月	じぶん銀行製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	52.7
	15:00	英国	3月	小売売上高(前月比)	2.1%
	15:00	英国	3月	小売売上高 除燃料(前月比)	2.4%
	16:30	ドイツ	4月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	66.6
	16:30	ドイツ	4月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	51.5
	16:30	ドイツ	4月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	57.3
	17:00	ユーロ圏	4月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	62.5
	17:00	ユーロ圏	4月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	49.6
	17:00	ユーロ圏	4月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	53.2
	17:30	英国	4月	総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	56.4
	17:30	英国	4月	製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	58.9
	17:30	英国	4月	サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	56.3
	22:45	米国	4月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 速報値	59.7
	22:45	米国	4月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI) 速報値	59.1
	22:45	米国	4月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 速報値	60.4
	23:00	米国	3月	新築住宅販売戸数	0.775(百万)
	納会	日本	---	東京ゴム(RSS3)2021年4月限納会日	
	納会	日本	---	東京金ミニ・白金ミニ2021年4月限取引最終日	
	納会	日本	---	東京石油製品2021年4月限納会日	
4月24日(土)					
4月25日(日)					

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

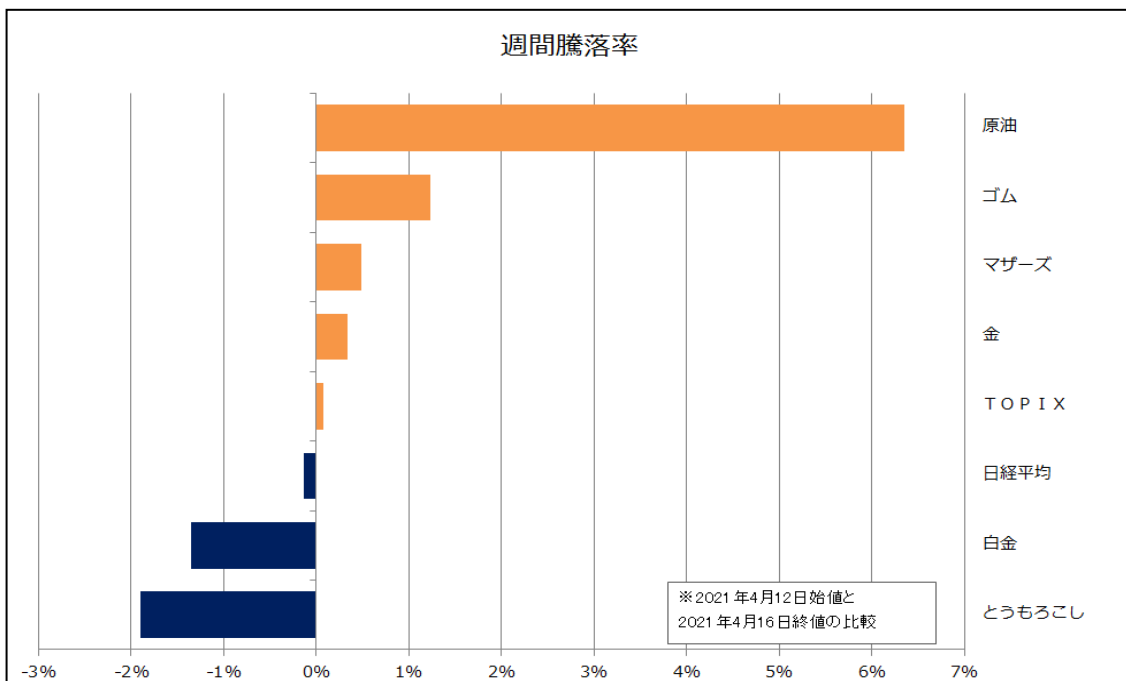
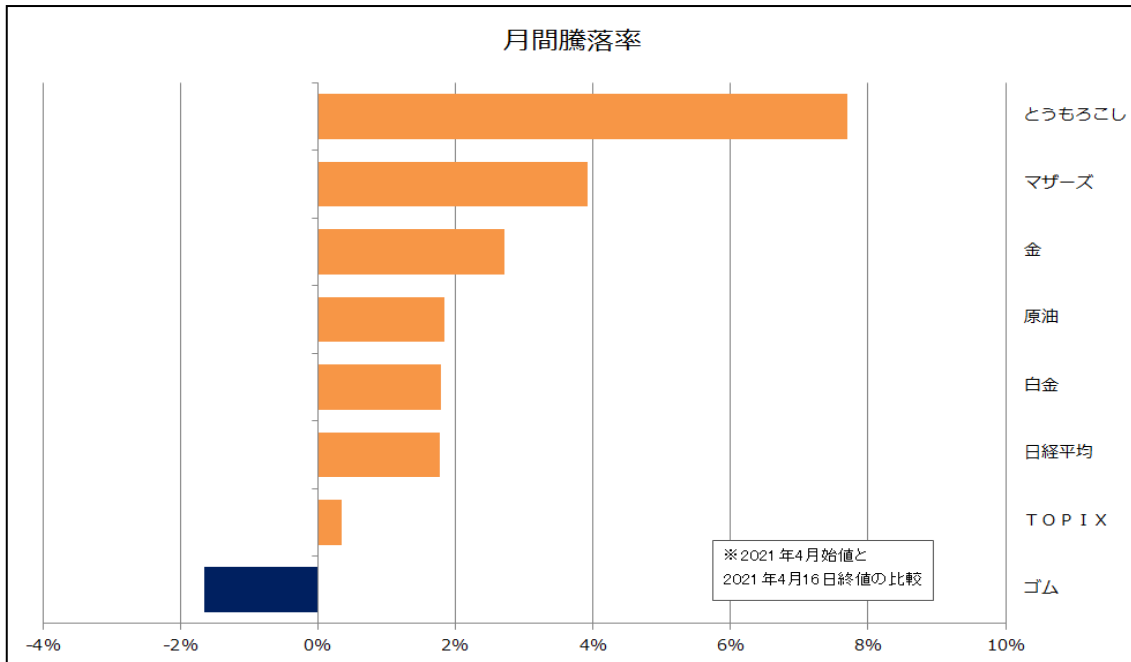
Weekly-Report



C X 週間展望 (4月19日~)

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

＜商号等＞ 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

＜加入協会＞ 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。